



「肥満」と「歯周病」の対策になるんです。

村田先生 やはり運動習慣と食事管理、そしてデンタルケアが大切です。高齢期の体を病気にかけやすくてしてしま

これからこのことを獣医師さんに聞いてみました

今は問題がなくても始めてほしいですね。年を重ねた時のために。免疫力が落ちてくる。将来の健康に備えて。

これからこのことを獣医師さんに聞いてみました

気になるけど、知らないお話

うちの子と長く暮らすために

気になること

愛犬達の寿命は年々伸びています。皆さんはうちの子に現れる兆候や対策をご存知ですか？そこで、先輩飼い主さんや獣医師さんに詳しく聞いてみました。

先輩飼い主さんの声をご紹介します

年齢を感じたあの瞬間!

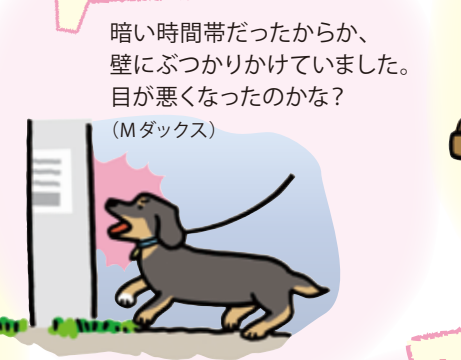
ソファに上る時に失敗!



手まで食べられそうに。



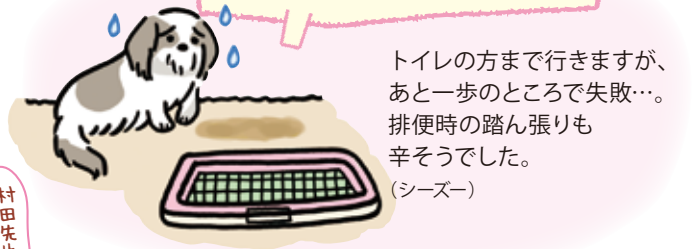
夜の散歩でトラブルが...



お散歩スピードが遅く...



トイレの失敗が増えた。



体を触らせません。



村田先生に聞いてみました！



他にもこんなコメントが

- 出迎えが減った。
- 立ち止った時に後足がブルブル震えている。
- 溝や段差、斜面にはまるが増えた。
- 鳥に興味があったが、無反応になってきた。
- 目が垂れてあどけない表情に。
- 顔に白髪が増えた。

※触られて飼い主さんを噛む子の場合には他に原因が考えられるので、専門家にご相談ください。



お話 村田香織先生
もみの木動物病院・獣医師、同病院のしつけ教室でパピークラス、問題行動を持つ犬猫のカウンセリングも担当。株式会社イン・クロウパー代表取締役。おうちでは8頭の犬猫に愛される飼い主さん。著書に『こころのワクチン〜子犬に教える、人としあわせに暮らす方法〜(パレード発行)』。

村田先生からメッセージ
多くの犬を診てきて思うこと
愛犬が喜んで病院に行く姿は飼い主さんの救いになっています。



病気で辛いのに、病院が嫌いなために悲鳴をあげたり、入院時にご飯を食べない愛犬の可哀想な姿を見て、飼い主さまが自分を責めてしまうことがよくあります。愛犬は「病院は治療の場所」と理解していません。むしろ「怪しい人が押さえつけてくる怖い場所」と感じているのでは？ 当院ではパピークラスやしつけ教室を始めて以来、喜んで来院する子が増えました。亡くなる直前まで嬉しそうに通ってくれた子もいたんです。病院で友達に会えたり、病院スタッフからごほうびやおもちゃが貰えたり、楽しい体験をすることで「病院は安心できる場所」と好きになり、通院のストレスが軽くなったのでしょうか。かかりつけのしつけ教室があれば一度参加してみたいかがでしょう。いつか愛犬が病気になる時、楽しんで病院に行けることが愛犬の喜びとなり、飼い主さまを勇気付けてくれる大切なことになると思います。

体に触れることでいろいろな幸せを愛犬に与えられるんです。

村田先生 実は愛犬を触ることで肥満を始め、様々な健康チェックができます。肋骨付近に触れて脂肪で骨がわからない子は肥満の可能性が。また犬は体の表面に腫瘍がでやすいのですが、毛が覆っているのを見ただけではわかりません。しかし、触るだけでかなり変化に気づきやすくなります。

ペイイ 触らせない子もいますが...。必要時に急にできるようにしておいてほしいですね。

村田先生 必要時に急にできるようにしておいてほしいですね。過去に足を出血しているのに触られるのを嫌い、患部をなかなか確認できないケースがありました。歯磨きや目薬が必要になった時も触られるのに慣れていないと受け入れてくれやすいですよ。

ペイイ 慣らす方法ありますか？

村田先生 できるだけ若い頃から優しく触ってあげましょう。ごほうびを与えながら触ってもいいですよ。



愛犬が食べ物に集中している間に体のいろんな部分を触り、体の感覚から慣らしてあげられます。

ペイイ 慣れるのは大変ですか？

村田先生 子犬の間に慣らしておくことをおすすめますが4、5歳から始めるなら時間をかけてあげる必要はありません。でも愛犬を触ることによって楽しいですし、いつでもできることではないですか？

ペイイ 確かに！ リラックスできますよ。

村田先生 触られるって本来、犬にとって気持ち良いこと。愛犬は気持ち良いことをしてくれる飼い主さんを好きになります。お互いの幸せな毎日のために欠かせないことなので、今すぐ始めてみてくださいね！